

特定非営利活動法人 Azuma-re

事業報告書

期間 2010' 4/1～2011' 3/31

NPO・コミュニティのサポート／中間支援

特定非営利活動法人 Azuma-re

年間事業のまとめ

毎月1回定期的に開催している市民参加交流型セミナー「Café Azuma-re」では、スピーカーとして発表した講師や、その講師が所属している団体との繋がりが、その都度生まれ、その後の活動に非常に多くのメリットがお互いにあった。また参加者も定期的に参加している常連さんと、その都度の新規参加者が毎回おり、沢山の個人・団体間の交流の場として、このセミナーが役に立った。

受託事業では栗原市市民活動支援センターとツーリズム人材育成事業において、様々な個人・団体・行政組織との出会いと交流があり、これもまた当法人にとっても栗原市の市民活動としても大きなメリットとなった。

そして、※「オンパク」手法を取り入れた地域づくり『第1回「くりはら博覧会“らいん”』』は東日本大震災にて途中で中止となってしまったが、平成23年10月に第2回目が開催された。

事業に関する事項

1. 市民活動、NPOのサポート／中間支援事業

①研修・交流事業

事業名	市民参加交流型セミナー「Café Azuma-re」
主催	NPO 法人 Azuma-re
2 / 9 共催	栗原市
目的	栗原市内の市民活動・NPO 活動を知る事で、学び・交流を促進する。 また定期的を開催することで、市民活動に興味をもつ個人への「参加入口」としての場の提供をおこなう。 そして、公の場での発表経験のない団体に発表の場を提供し、団体の飛躍の一助とする。
実施概要	●日 時：2010' 4/14, 5/12, 6/9, 7/14, 8/11, 9/8, 10/13, 11/10, 12/8 1/12, 2/9 (共催) 合計11回開催 ●場 所：栗原市市民活動支援センター ●時 間：19:00～21:00 ●参加費：300円 (お茶菓子代) ●参加者：延べ202名 平均18.4名 ●内 容： 「花山の地域イベントについて」佐藤倫治氏 (花山観光物産協会会長) 「新聞記者からみた栗原」田村賢心氏 (河北新報社)

	<p>「万葉祭について」 杉浦風ノ介氏（タラチネの会代表）</p> <p>「モンゴルでの持続可能な取組」 後藤国夫氏（株）後藤バイオ代表取締役</p> <p>「田守村の取組み」 齋藤肇氏（ふゆみず田んぼ農家）</p> <p>「薬師まつり」 佐藤浩喜氏（薬師祭り実行委員長）</p> <p>「商工会に若者が街を元気に」 星幸宏氏（南部商工会青年部部長）</p> <p>「とっておきの音楽祭 in くりはら」 菅原一住子氏（事務局長）</p> <p>「地球交響曲」 菱沼優子氏（登米栗原ガイアネットワーク代表）</p> <p>「“能”について」 菅原夢玄氏（能面師）</p> <p>「農業を地場産業に変える！後継者が継げる魅力ある栗原をめざして」 白鳥正文氏（有）川口グリーンセンター代表取締役</p>
成果課題	<p>成果：スピーカーとして発表した講師や、その講師が所属している団体との繋がりが、その都度生まれ、その後の活動に非常に多くのメリットがお互いにあった。また参加者も定期的に参加している常連さんと、その都度の新規参加者が毎回おり、沢山の個人・団体間の交流の場として、このセミナーが役に立った。</p> <p>課題：毎月行うことでのメリットも多いが、マンネリ化してしまうデメリットがある。平均して20名前後の新旧参加者はあるものの、新鮮味や惰性化してしまったりする事があったのではないかと思う。</p> <p>毎回実施しているアンケートの活用をおこなっていないので、アンケートの意見を踏まえ今後の開催を考える仕組みをつくる事が必要</p>

事業名	NPO 基礎講座～はじめての NPO～
主催	宮城県（みやぎ NPO プラザ）
共催	栗原市、NPO 法人 Azuma-re
目的	近年高まってきている市民の NPO への関心にこたえるため、NPO の基礎や、NPO 法人設立などを総合的に学ぶ講座を開講する。
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ●日 時：平成22年11月18日（木） ●場 所：栗原市市民活動支援センター ●時 間：18：30～20：30 ●参加費：無料 ●参加者：17名 ●内 容：NPO の基礎、法人設立について、県内の多様な分野の NPO を画像で紹介

②情報の集積・発信事業

事業名	有益情報チラシ事業
主催	NPO 法人 Azuma-re
目的	「情報は宝」市民活動・NPO 活動をおこなううえで、有益な情報ソースをまとめ、誰でも持ち帰れる紙媒体「チラシ」にし、市民活動・NPO 活動を促進する。
実施概要	<p>●日時：毎月、月末に行っているスタッフミーティングにて、その都度の「テーマ」を決め、次回のミーティングまで個々に情報を集め、その情報を一枚にまとめチラシを作成している。</p> <p>●場所：栗原市市民活動支援センター展示スペース</p> <p>●内容：「DV ドメスティック・バイオレンス」「くりはら輝かせ隊」「バス・バスターズ」「参加が広がる広報力アップのコツ」「NPO 法人役員・職員の人件費と源泉徴収」「NPO 法人収支会計から活動計画書へ」「どうして会議で決められない？決まったことが動かない？」「NPO を運営していくために」「NPO の基礎知識」「新しい NPO 法人会計基準」「信頼される NPO の 7 つの条件」「宮城県内の NPO 支援施設」など</p>
成果課題	<p>成果：目に見える成果という点ではチラシが無くなる事でした判断できず、実際にどういった効果があったのかは、はっきりと示せないが、情報は「新しい情報」を常に発信する事が重要であり、待っていても集まる物はたかが知れている。常に新しい情報がそろっている事が、情報集積所の存在意義であると考えます。</p> <p>課題：スタッフだけの集積だと、集められる情報に限界がある。市内の情報を市内の要所に流通できる仕組みの構築が必要である。</p>

事業名	市民活動団体データベース事業
主催	NPO 法人 Azuma-re
目的	住民・団体ともに、栗原市内の団体・活動を広く周知することで、活動の協力・応援や会員の入会を促進し、栗原市内の市民活動・NPO 活動を促進する。
実施概要	<p>●内容：当法人ホームページと栗原市市民活動支援センター展示スペースを活用し、市内の市民活動・NPO 団体の情報を展示する。 [写真・団体名・代表者名・事務所たる住所・連絡先電話番号・FAX・Eメール・趣旨・活動内容・メッセージ等]の記載</p>

成果課題	<p>成果：現在までの登録団体数 30</p> <p>課題：書面や電話などにより数回やり取りをおこなうが、協力していただけない団体が多い。市民活動・NPO にとっての情報開示の意識の違いが、団体によってまちまちである事が原因かもしれない。</p>
------	---

事業名	市民活動・NPO 情報スクラップ事業
主催	NPO 法人 Azuma-re
目的	栗原市内の団体・活動を広く周知することで、活動の協力・応援や会員の入会を促進し、栗原市内の市民活動・NPO 活動を促進する。
実施概要	<p>●内 容：河北新報、日経新聞、日経流通新聞を定期的に購読し、紙面より NPO・市民活動に関する記事を切り取りスクラップして、栗原市市民活動支援センター展示スペースを利用し展示。</p>
成果課題	<p>成果：3 種類の新聞が常に置いてある事が認知されいろいろな市民が閲覧している。</p> <p>課題：続ける事が意味をなす事業なので、予算の確保が課題である。</p>

③相談／コンサル事業

事業名	市民活動・NPO 相談事業
主催	NPO 法人 Azuma-re
目的	市民活動・NPO 等の活動や組織、その他全般に係る課題の解決を協力し、栗原市内の市民活動を促進する。
実施概要	<p>●日 時：平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月</p> <p>●場 所：NPO 法人 Azuma-re 事務所</p> <p>●相談料：無料</p> <p>●のべ参加者：5 名</p> <p>●相談内容：「現在の団体を NPO 法人化した方がよいか？」 「市内の福祉関係の NPO を紹介してほしい」 「NPO 法人になるメリットとは」</p>

④委託事業

事業名	栗原市市民活動支援センター施設管理業務
発注者	栗原市
受注者	NPO 法人 Azuma-re
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ●期間：平成22年4月1日～平成23年3月31日 ●内容：施設及び設備の貸出、施設利用に必要な助言、受付業務等

事業名	緊急雇用創出事業ツーリズム活動支援事業
発注者	栗原市
受注者	NPO 法人 Azuma-re
目的	本業務は緊急雇用創出事業実施要項に基づく業務である。
実施概要	<p>●業務概要：栗原市内のグリーンツーリズム実践者などによる協議会「くりはらツーリズムネットワーク」の各種事業をコーディネートするとともに、今後、実践を目指す事業者等の支援を行いながら、積極的に研修に参加させることによって、知識やノウハウを習得させ、将来のツーリズム実践者を養成する。</p> <p>●従事者：3名</p> <p>●研修内容：●平成22年10月22日(金)～23日(土)オンパク人材育成全国キャラバン事業 第2スクール夏秋 諏訪(ズーラ)研修会 ●平成22年11月6日(土)みやぎ地域づくり団体協議会大崎支部研修交流会</p> <p>会ルールが繋がる地域づくり ●平成22年9月3日(金)～4日(土) オンパク人材育成全国キャラバン事業 第2スクール夏秋熱海(オンたま)研修会 ●平成22年8月21日(土)社会イノベーター公志園東北大会[東北公志園] ●平成22年10月22日(金)くりはら観光塾 第三回自宅</p> <p>ショップ開業支援講座 ●平成23年1月21日(金)みやぎグリーン・ツーリズムネットワーク体験交流会 in 大崎市田尻 ●平成22年9月14日(火)～17日(金)財団法人農村漁村交流活性化機構 GTインストラクター育成スクール ●平成22年11月11日(木)～11月13日(土)第9回 全国グリーン・ツーリズムネットワーク 岐阜・三重大会</p>

成果課題	<p>成果：「オンパク」手法によるまちづくりを取り入れ実施できたことが大きな成果ではないかと思えます。</p> <p>※オンパク：体験を取り入れた小規模（5名～20名程）イベントを、短期間（1～2ヶ月）に集中して行う。イベントは一冊のパンフレットに集約され、お客さんはカタログから好きな商品を選ぶようにイベントプログラムを決めることができる。</p> <p>プログラムの提供者にとって新商品開発のきっかけ、新規ビジネス挑戦のきっかけや、お店や活動の宣伝など、のメリットがある。</p> <p>客さんにとっては、通常行かない店・知らない店・初めての店でも「体験型イベント商品」だから入りやすい＝栗原の良さを知る。</p> <p>プロジェクトとしては、さまざまな地域資源の発掘と地域資源の再確認、農商工ビジネスの活性化、市内での資金循環、外貨獲得、生きがいつくり</p> <p>課題：通常のビジネスとは違い「まちづくり」という趣旨であり、商品も「小規模な体験プログラム」という特質から、高額な値段設定は難しく、利益率もかなりひくくなる。</p> <p>人件費とパンフレット作成費用の捻出が課題である。しかし人件費とパンフレット費を削ることは、この取組自体を削ることとなり、実行しても効果の少ないそれなりのイベントととして終わる事となるだろう。</p>
------	---

事業名	くりはらツーリズムネットワーク事務局業務
発注者	くりはらツーリズムネットワーク
受注者	NPO 法人 Azuma-re
目的	新しく設立されたばかりの団体立ち上げと軌道にのるための支援
実施概要	<p>●業務概要：くりはらツーリズムネットワークの各種事業コーディネート 毎月1回の会報製作</p> <p>●従事者：3名</p>
成果課題	<p>成果：市内10町村からさまざまな個人・団体があつまり団体できた。初年度としては、まずは組織づくりであった。そのサポートとしてはまずまずではなかったか考える。</p> <p>課題：設立時から大所帯となっているため、独立性・自主性という面はまだまだこれからであると考えられる。継続して活動をつづけてくためには、資金の依存を出来るだけ少なくし自主財源を増やす事を念頭に、組織作りを行わなくてはならないと考える</p>